



スマートフォンで今いる場所を確認



松崎まち灯り(伊那下神社)



丹那断層をジオラマで学ぶ



施設の方とおもしろ自転車に乗車

地域に飛び出す静大生！/ フィールドワーク特集

「地域に貢献できる人材を育成」



松ぼっくり玉入れ



チョークアート



多くの町民とNEWHAKUを作成

静岡大学では、感性豊かな知性を育てるために、フィールドワーク、ものづくり体験、地域づくり、子どもと共に育ちあえる学校や地域に接する機会を活用し、地域・社会の様々な分野でリーダーとして発展に貢献できる人材の育成に力を入れています。

学生たちは、静岡県内の中山間地域から街中まで、さまざまな課題を抱える各地域をフィールドとし、多様な人・ものとかかわりながら、自らの専門分野を生かし、異なる分野の仲間と協同しながら課題解決に取り組んでいます。時には失敗もありますが、地域で暮らす人々に向き合い、体験したことから多くの学びを得ています。



竹水鉄砲



写真フレーム



稲取への移住者・リピーターとの交流会



新一年生を交えた青空ミーティング

伊豆半島ジオパークにおける環境保全と防災対策、持続可能な開発と教育(SDGs/ESD)を推進

伊豆半島は、2000万年来の火山活動や地殻変動の生んだ豊かな自然と、そこに育まれた生態系・地域社会の歴史・特産物・文化などが高く評価され、2018年4月に国内9つめのユネスコ世界ジオパークの認定を受け、今後一層の活動推進が期待されています。

フィールドワークは、2つのグループに分かれ、「保全と防災グループ」では、ジオサイト保全のための環境負荷センサーの開発、地域住民による防災まち歩きと連動した情報共有ウェブサイトの開発と改良、新型コロナウイルス対策用のオンライン版も含めたジオツアーや防災まち歩きの開発・検証等を行っています。

「教育グループ」では、ジオパークでの教育活動の幅を広げるために、SDGsを軸としながら、VR(バーチャル

港全体から避難する方向を考える



リアリティー)の活用、漁業やダイビングとジオパークの視点(ウオジオ)、大学生目線での健康と教養のクアオルト×ジオツアーなど、プログラムの開発とその教育普及に取り組んでいます。

とうもんの里



とうもんの里

子どもたちを呼び込むための環境づくり

辺り一面に田園風景が広がり、四季折々の美しい情景が見られる田園空間博物館南遠州とうもんの里総合案内所。NPO法人とうもんの会が、地域の自然、農業、

歴史や伝統文化を守り、継承するために運営しています。農産物を直売する「朝採り昼市」、農業体験、食体験、歴史自然観察などのプログラムも行い、地域住民の交流の場にもなっています。

静岡大学の学生たちによるフィールドワークでは、遊具の設置や池の整備、看板の設置など設備の改良を行うとともに、一人でも多くの人に利用してもらうきっかけとして、親子で参加できるイベントを企画しています。例えば、キッズフェスでは「全身で自然を感じよう!!」をテーマに、イベントの企画・準備、運営などを行いました。植物を使った工作やゲームで、自然と触れ合いながら自由に遊んだり、松ぼっくり玉入れやチョークアート、竹水鉄砲を使って自然の中で体を動かしたり、というイベントを通して、多くの学びや気づきを得ることができました。

地域の魅力の再発見と発信への取り組み ～地域の人と外部の人との架け橋として～

東伊豆町は、海沿いに立ち並ぶ旅館で温泉や景色を楽しもうと、多くの観光客が訪れる町です。しかし、どこに立ち寄ることもなく、旅館に直行してしまうため、まちの賑わいなくなり、空き家や空き店舗が増え、課題になっています。

そこで、東伊豆町フィールドワークでは、稲取地区で「人の行き交う稲取」の実現を目指したまち歩きのイベントを企画、実行しました。来訪者が旅館や温泉以外の魅力に気づくだけでなく、町民もまちの魅力を再発見し、自ら外に発信する活動につながっています。

2022年度は港の朝市会場の外壁のパネルアートを新調するプロジェクト“NEWHAKU”を実施しました。

NEWHAKU設置完了



東伊豆をイメージしたアート作品で、掲示板や情報交換用ボックスを備え、来訪者と町民をつなぐコミュニケーションツールとなっており、稲取の小中高校生をはじめ、多くの町民の方々にご協力いただき、交流を深めることができました。